



2020年(令和2年)3月期 決算説明資料

2020年5月29日

鉦研工業株式会社(証券コード:6297)

❑ 会社概要	P. 2
❑ 事業内容	P. 3
❑ 2020年3月期決算の概要	P. 4
❑ 次期2021年3月期連結業績見通し	P.23
❑ 補足資料	P.24
厚木工場を売却し、伊勢原新土地購入へ	P.25
社是・経営理念	P.26
国内における新機種の世界投入	P.27
海外における新ビジネスの展開	P.28

会社概要

会社名（英語表記）	鉦研工業株式会社 (KOKEN BORING MACHINE CO.,LTD.)
設立年月日	1947年10月16日
本社所在地	東京都豊島区高田2丁目17番22号
決算	3月
資本金	11億6,541万円
上場市場	JASDAQ
代表取締役社長	木山 隆二郎
従業員数	連結230名（2020年3月末／臨時雇用者を除く）
事業内容	ボーリングマシンの製造販売および工事施工
連結子会社	1社：構造工事株式会社

事業内容

1. 各種ボーリング・グラウト機器製造・販売

建設事業計画の立案から建設完成までの様々な段階でボーリング装置やグラウト機器が使用されます。地質調査や地盤改良工事、災害防止工事、トンネルの掘さく現場から、深海から南極まで、鉱研工業の製品は様々な場所と分野で活躍を続けています。

2. エンジニアリング・工事施工

ボーリングマシンのトップメーカーであることを最大限に活かし、独自の機械、独自の工法を駆使し、トンネル掘削の先進調査ボーリング、温泉・地下水掘削、直径6mの立坑レイズボーリングなどを展開しています。



ボーリングマシンの
トップメーカー

地下開発の
エンジニアリング、
施工

決算の概要（前期比較）

（単位：百万円）

	連 結			個 別		
	19/3期	20/3期	増 減	19/3期	20/3期	増 減
受注高	7,383	8,257	873	6,560	7,375	814
売上高	7,137	7,600	463	6,165	7,039	874
営業利益	272	415	142	131	403	272
経常利益	267	416	148	125	397	271
当期純利益	179	338	158	87	322	235

	19/3期	20/3期	増 減	19/3期	20/3期	増 減
総資産	8,011	7,938	△73	7,512	7,561	48
有利子負債	1,108	970	△138	1,058	970	△88
自己資本 (自己資本比率)	3,564 (44.5%)	3,873 (48.8%)	309 (4.3 p)	3,408 (45.4%)	3,677 (48.6%)	268 (3.3 p)

要約連結損益計算書

◆前期比較の連結損益計算書

売上高増加と原価率改善により粗利益15.8%増加

期初の資本業務提携に絡む販管費等の増加はあるが、営業利益、経常利益ともに前期比50%台の伸び
法人税等は繰延税金資産の回収可能性見直しによる積み増しあり

結果、最終の当期純利益は158百万円増加

(単位:百万円)

	19/3期	20/3期	前期比増減	
売上高	7,137	7,600	463	6.5%
売上原価（原価率）	5,393（75.6%）	5,580（73.4%）	187（△2.2p）	3.5%
売上総利益	1,743	2,019	275	15.8%
販売費管理費	1,471	1,604	133	9.1%
営業利益	272	415	142	52.3%
営業外損益	△5	0	6	△113.9%
経常利益	267	416	148	55.6%
特別損益	0	△58	△58	—
法人税等	80	18	△62	△77.3%
非支配株主利益	7	1	△6	△82.9%
当期純利益	179	338	158	88.4%

2020年3月期決算（連結）のポイント（増収増益）

売上高増加+6.5% 7,600百万円

原価率ダウン△2.2ポイント 73.4%

粗利益増加+275百万円

販管費133百万円増加

営業利益415百万円（+142百万円）

特別損失△73百万円計上(厚木工場リニューアル計画中止に伴う固定資産除却損と機械装置の減損処理費) 及び繰延税金資産の回収可能性見直しによる積み増し44百万円

当期純利益338百万円（+158百万円）

- ◆売上高は7,600百万円、前期比+463百万円増加
 - ボーリング機器は国内R P D機の出荷台数増加等に伴い増加したが、海外は大きく減少
 - 工事施工はトンネル先進調査工事、温泉工事が好調であったのに加えてB M工事及び長尺コントロールボーリング工事の完工も売上増に寄与
- ◆販管費は主に手数料と研究開発費が増加（前期比133百万円増）
- ◆結果、営業利益415百万円、経常利益416百万円、当期純利益は338百万円を計上

受注状況・・・受注高は前期比873百万円（+11.8%）の増加

◆受注高は8,257百万円で、前期比873百万円増加

➤ボーリング機器：4,500百万円（+730百万円増）

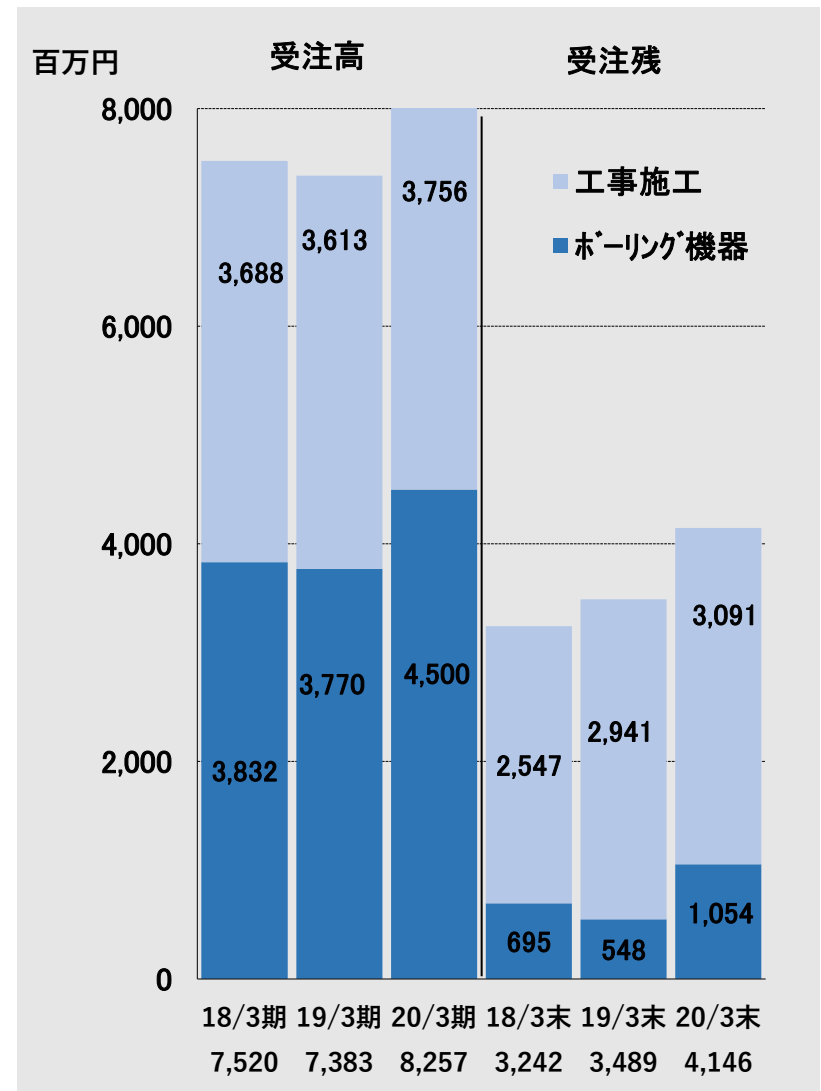
RPD機を中心に国内・海外ともに製品・商品増加
海外においては中国向け特機人命救済機FS-120CZ 4号機の大型受注も獲得

➤工事施工：3,756百万円（+143百万円増）

国内は、大口径立坑掘削工事（BM工事）と長尺コントロールボーリングの大型受注に加え、都市土木でのアンカー工事の受注も増加。但し、海外はキルギス調査工事の追加受注のみ

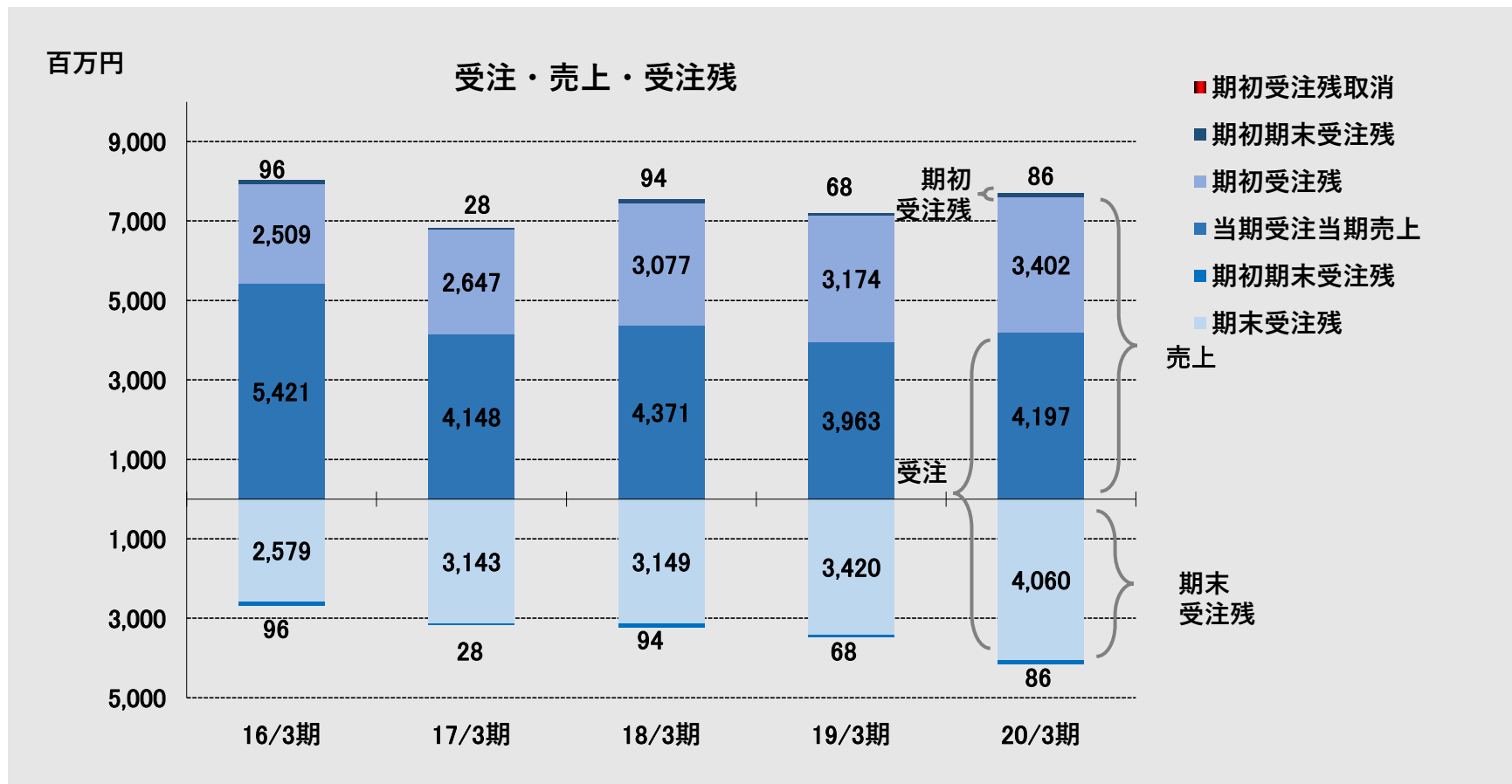
◆20/3末受注残は4,146百万円（+657百万円増）

➤ボーリング機器の国内外受注残が大幅増加 （+506百万円増）

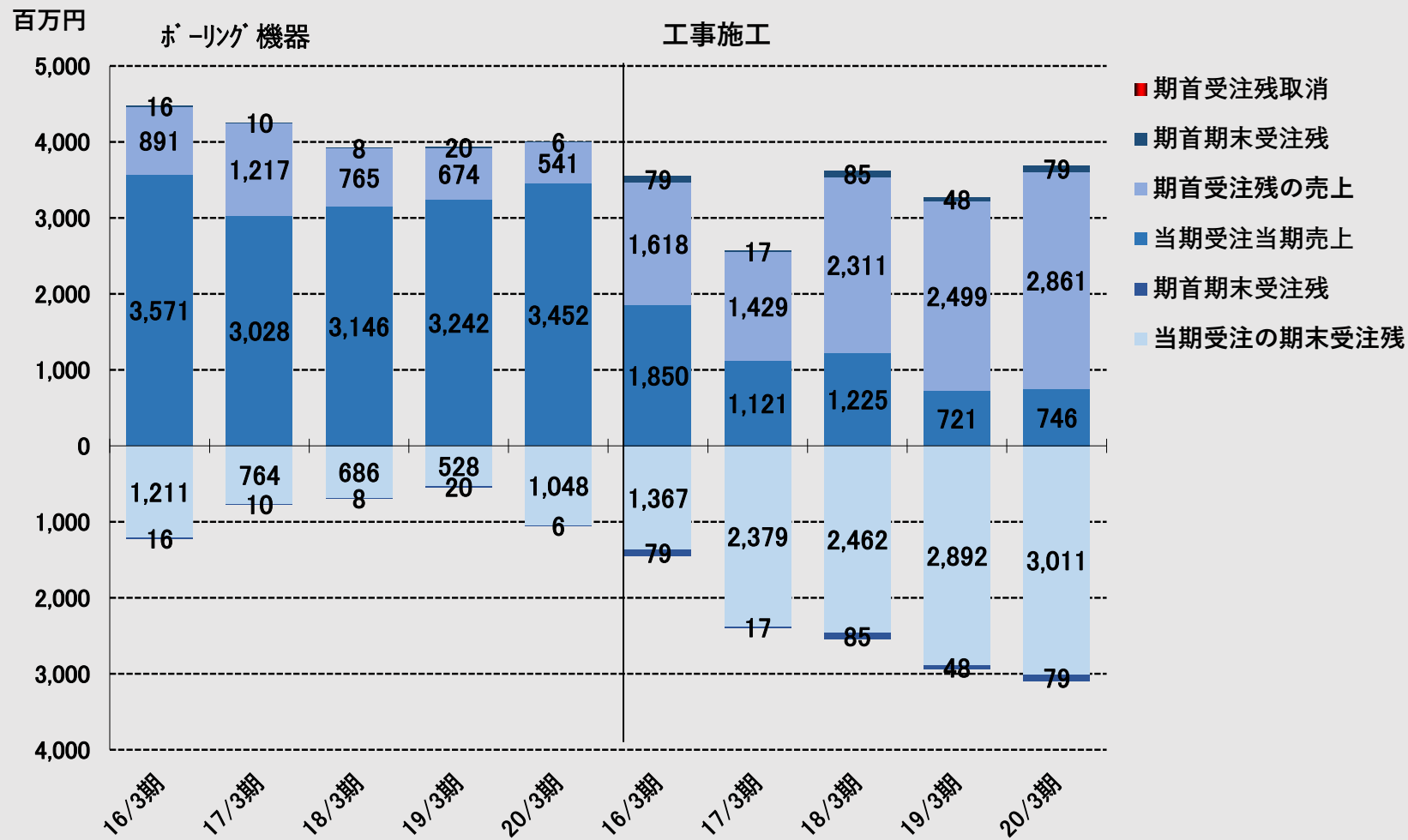


受注・売上・受注残

- ◆ 期初受注残3,489百万円のうち、3,402百万円（98%）が当期売上
 - 期中受注高8,257百万円のうち、4,197百万円（51%）が当期売上
- ◆ 期末受注残は4,146百万円（うち当期受注分4,060百万円、期初分の繰越は86百万円）



セグメント別受注・売上・受注残



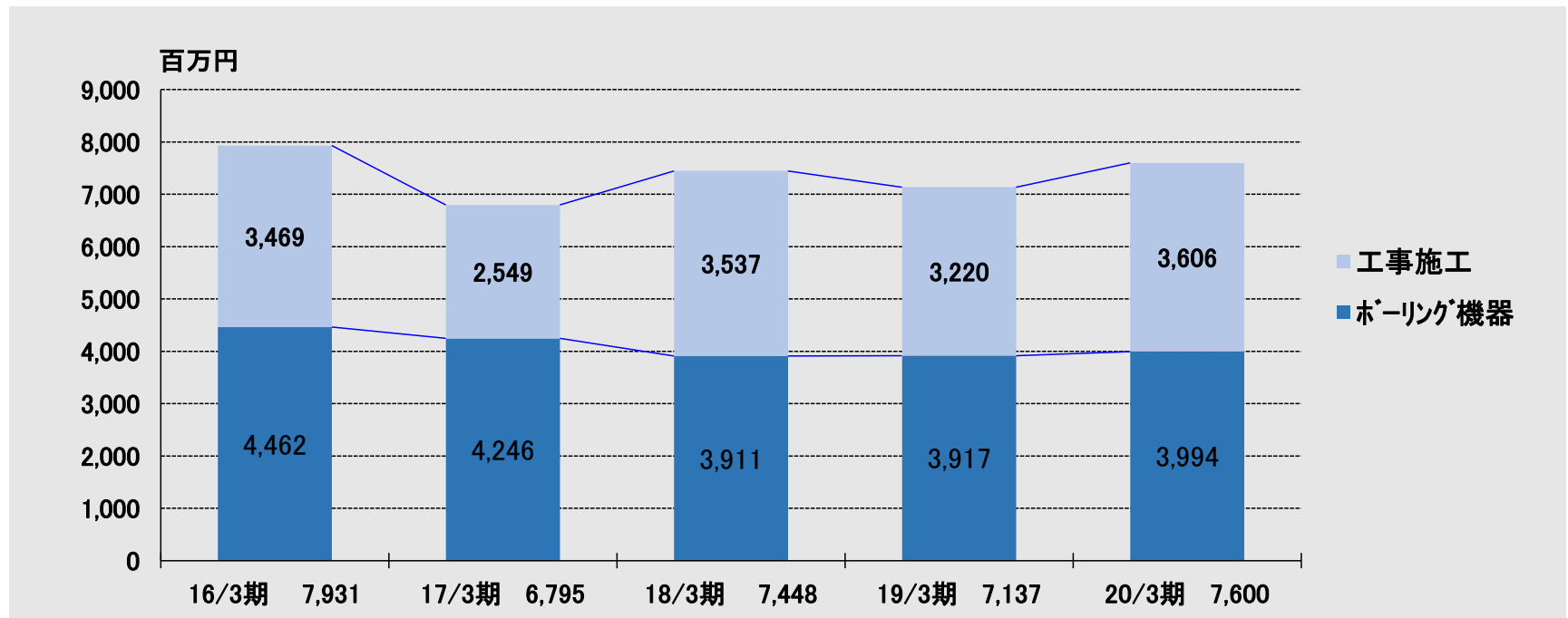
売上高・・・前期比+463百万円（+6.5%）増加

◆ボーリング機器3,994百万円、前期比77百万円増

- 国内では、主力ボーリングマシンのR P D機シリーズの出荷売上及び関連ツールの売上が増加したが、海外が中国向けのR P D機と少額のO D A案件が中心であったため全体では2.0%の増加に留まる

◆工事施工3,606百万円、前期比386百万円増

- 海外は前期から続いていたO D Aキルギス工事のみであったが、国内では、アンカー工事は減少したが、トンネル先進調査ボーリング工事の多忙状況に加え、B M工事、コントロールボーリング工事及び温泉工事の完工高が増加し、全体では12.0%の増加となる



売上高の内訳

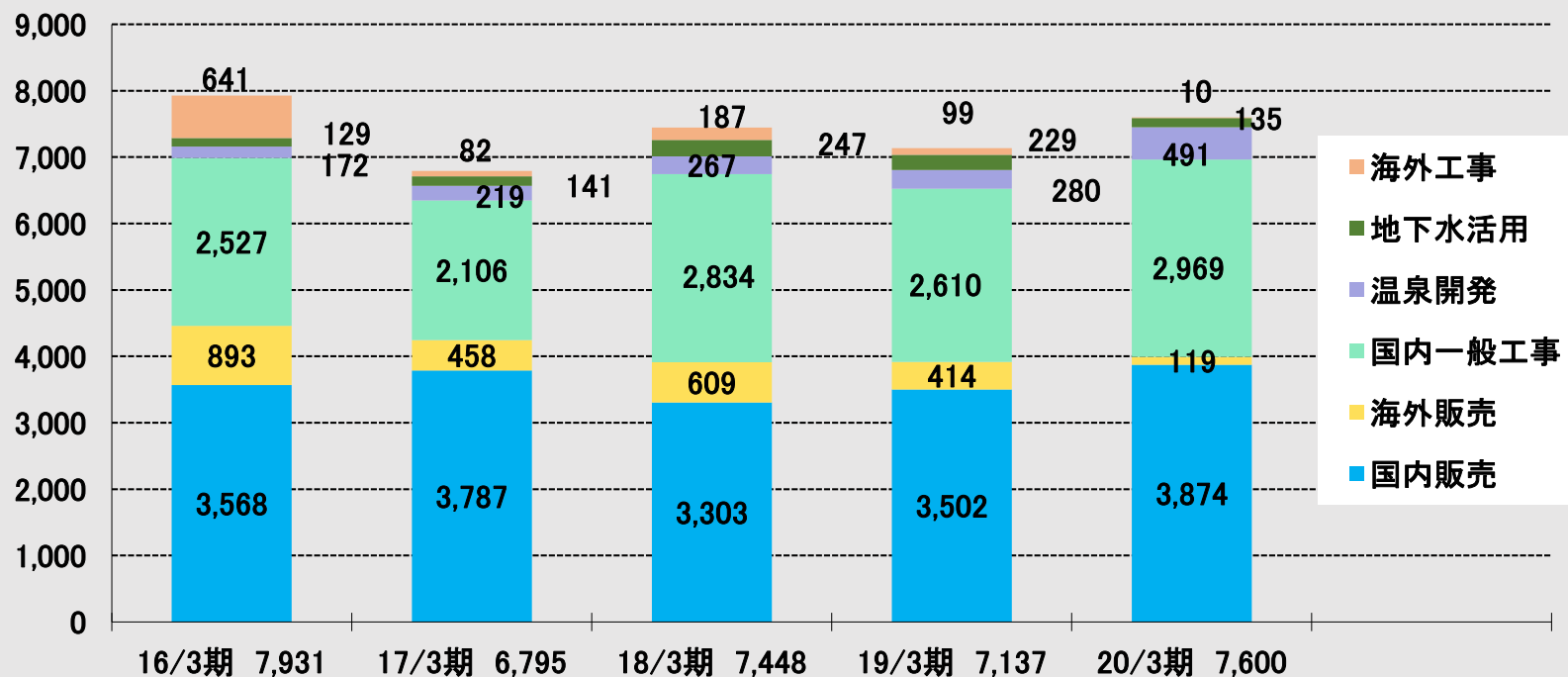
◆ボーリング機器合計は、前期比77百万円増加

➤国内販売は372百万円増加したが、海外販売が△295百万円減少

◆工事施工合計は、前期比386百万円増加

➤トンネル調査工事、BM工事、コントロールボーリング工事及び温泉工事は増加したが、アンカー工事が減少

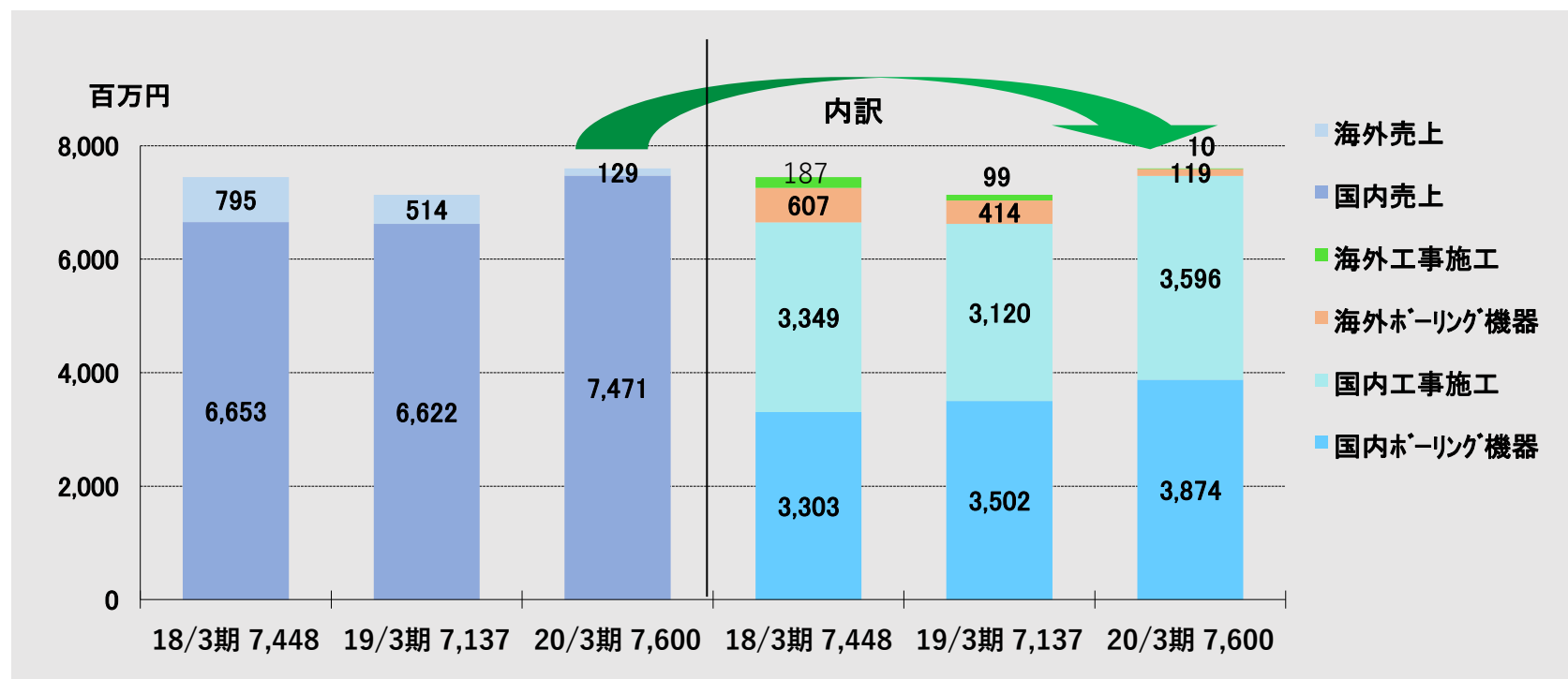
百万円



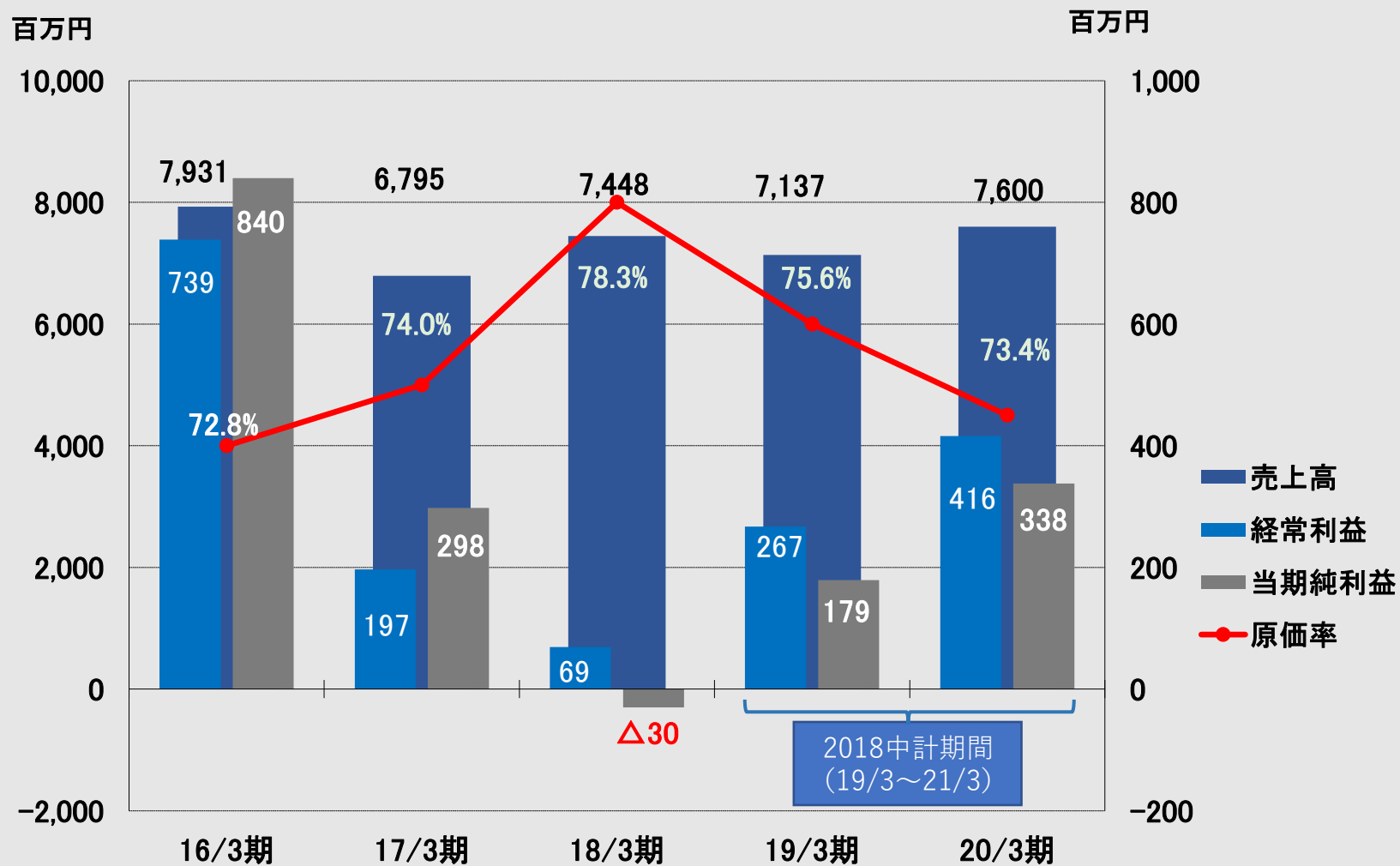
海外売上高・・・前期比74.8%減

◆海外売上は前期比△384百万円減の129百万円

- ボーリング機器は、中国向けにRPD機とツール及び中南米エルサルバドル向けODA水井戸機器などの出荷売上はありましたが、韓国向けRPD新型機がコロナの影響により輸出が遅れ次期へ繰延べされたこともあり、前期比△295百万円減の119百万円
- 工事施工は、前期より続いていたキルギスでの調査工事が竣工結果、前期比△89百万円減の10百万円の完工高

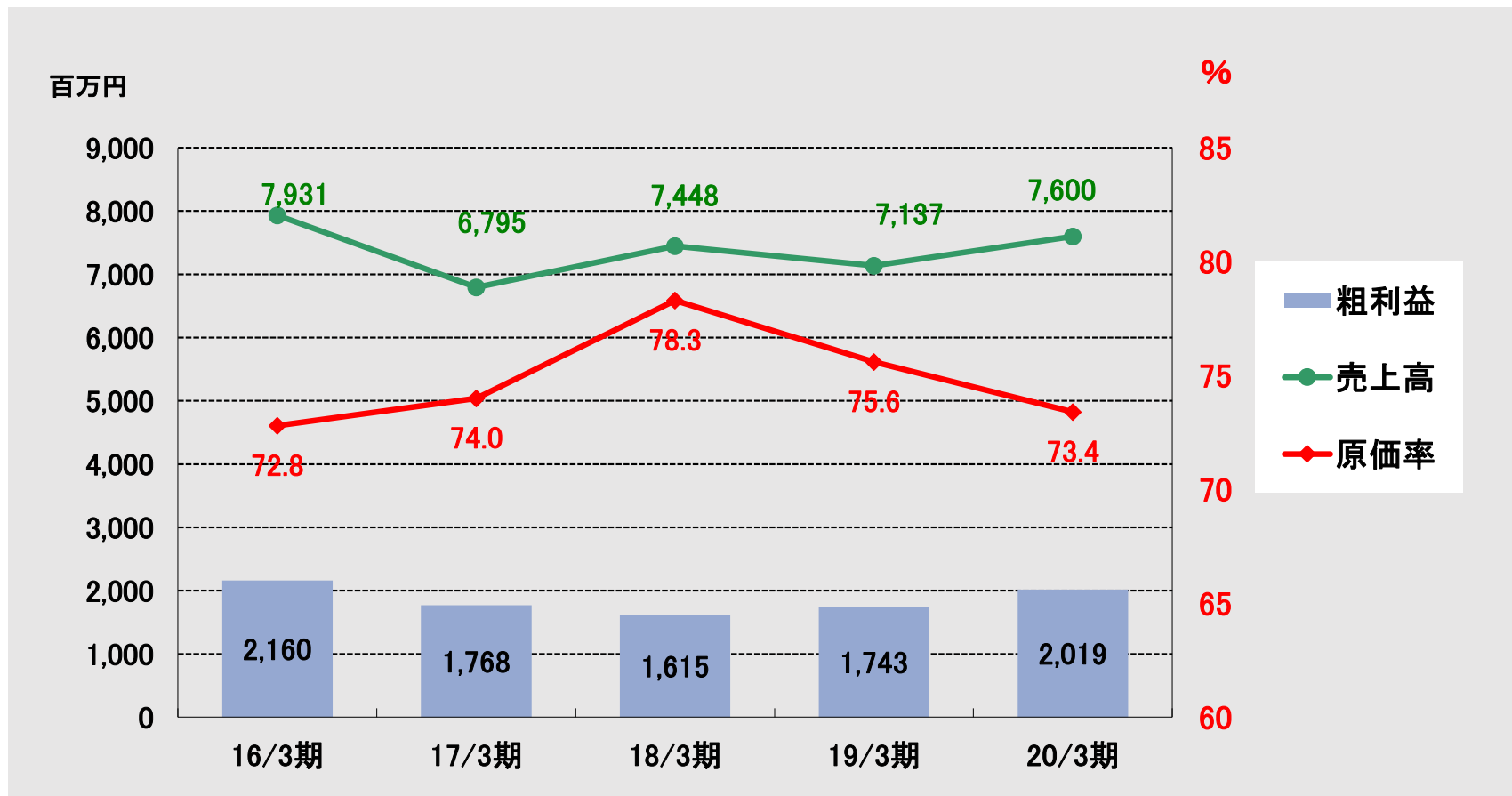


売上高・利益の推移



売上高・原価率及び粗利益の推移

- ◆粗利益は2,019百万円で前期比+275百万円（+15.8%）増加
 - 売上高は増加（+463百万円）し、原価率も△2.2ポイント減少



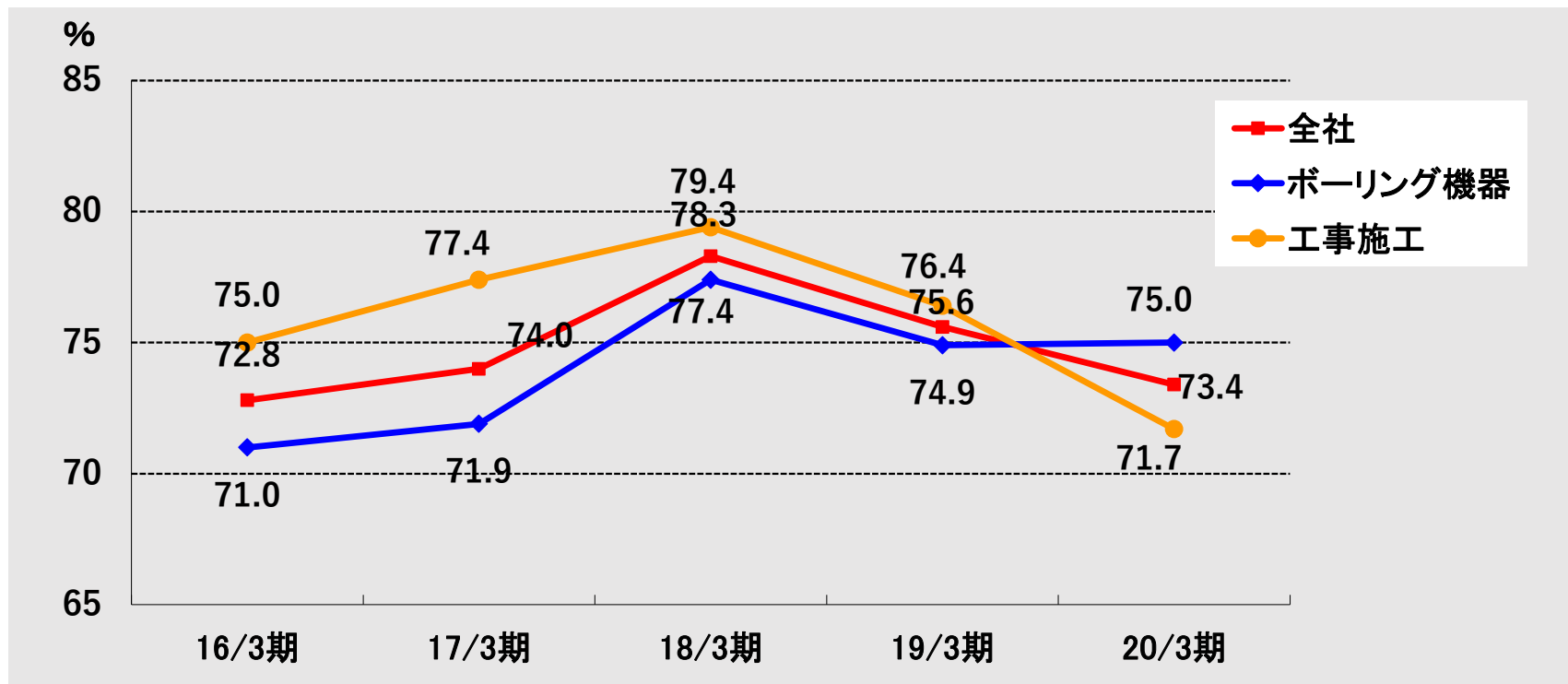
セグメント別原価率の推移

◆ボーリング機器の原価率は75.0%

➤売上高は増加したが、前期比0.1ポイントアップ

◆工事施工の原価率は71.7%

➤完工高が増加し、原価率は当社国内得意工事（コントロールボーリング工事とBM工事）に加えて温泉工事の原価改善が奏功したため、△4.7ポイントダウンを達成



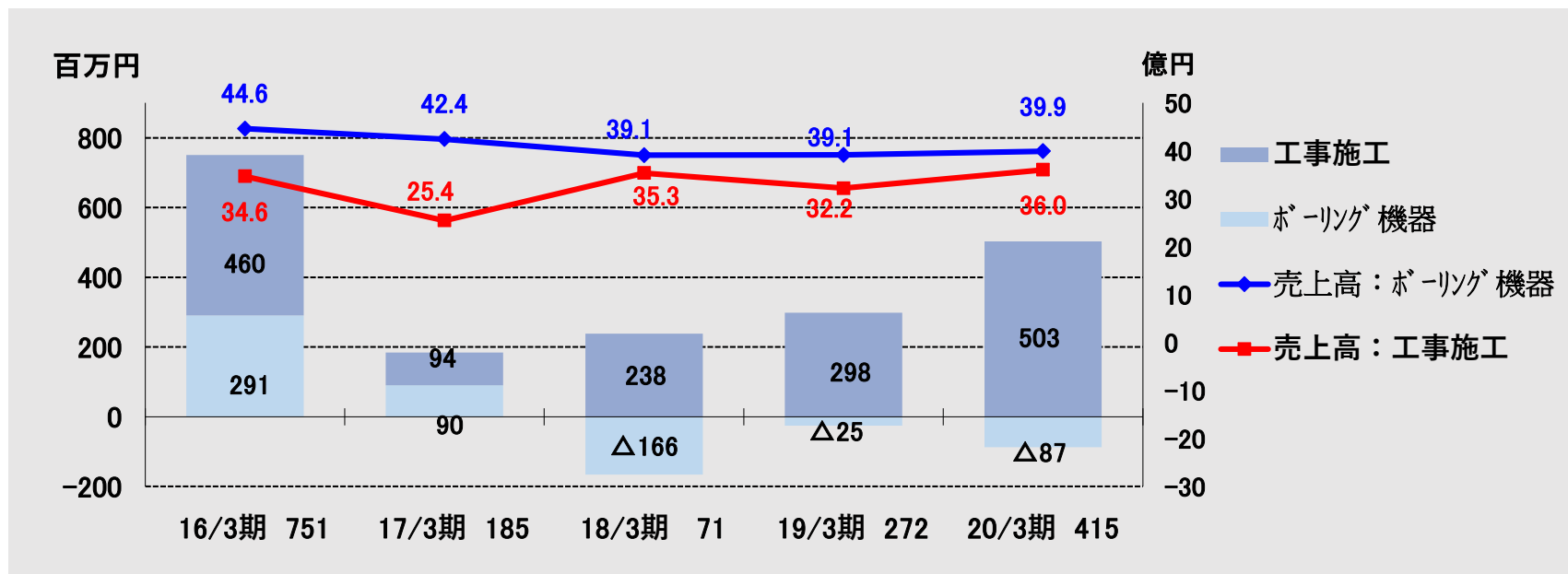
セグメント（営業）利益

◆ボーリング機器関連はセグメント損失△87百万円

- 売上高3,994百万円（2.0%増）となったが販管費の固定費カバーには至らずマイナス

◆工事施工関連はセグメント利益503百万円

- トンネル先進調査工事、温泉工事に加え、コントロールボーリング工事、BM工事などの完工により売上高3,606百万円（12.0%増）となり、上記工種が中心に前期比204百万円の利益増加



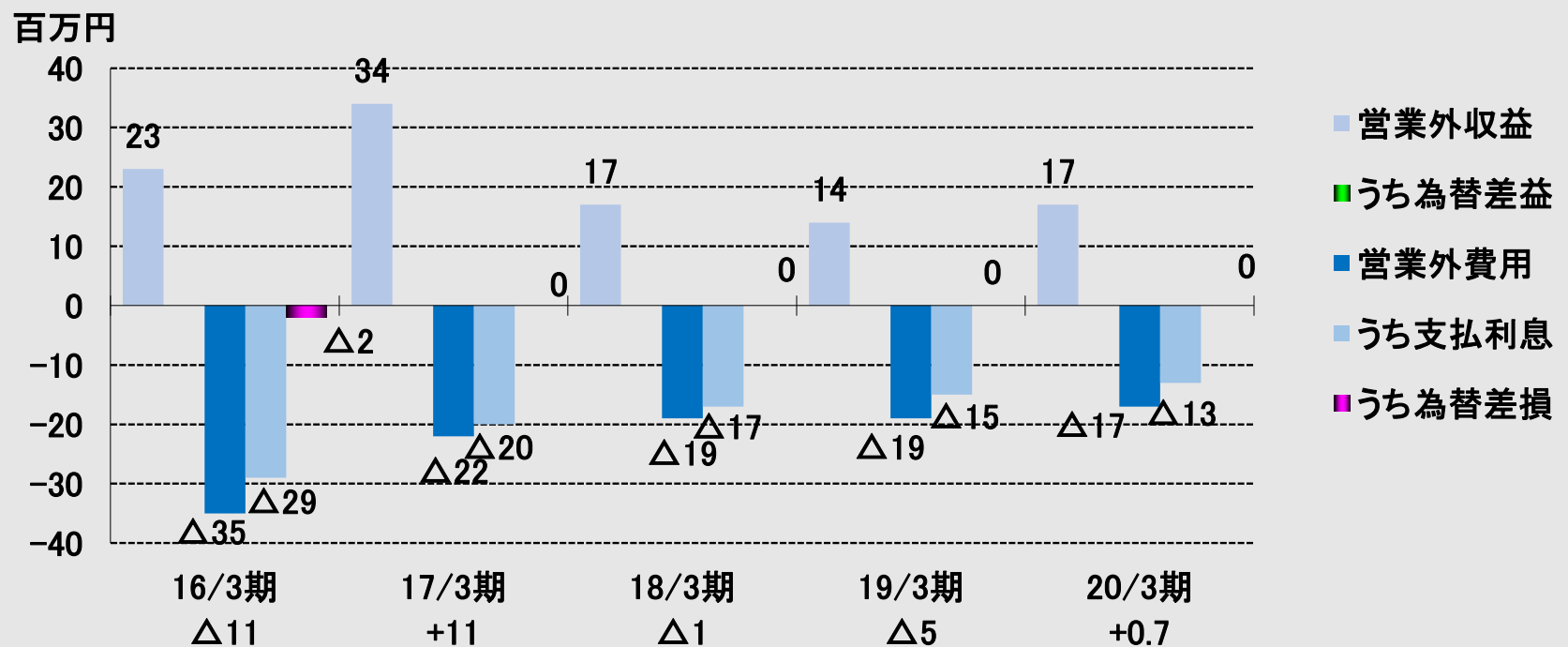
営業外損益・・・NETで0.7百万円の収益

◆営業外収益は前期比3.7百万円増の17.8百万円

➤ 保険金解約及び受取保険金9.5百万円、公園管理料1.9百万円、受取賃借料1.2百万円

◆営業外費用は前期比△2.3百万円減の17.1百万円

➤ 有利子負債減少に伴い支払利息が△1.8百万円減少し、13.9百万円。他に災害による損失（台風19号被害）1.4百万円発生



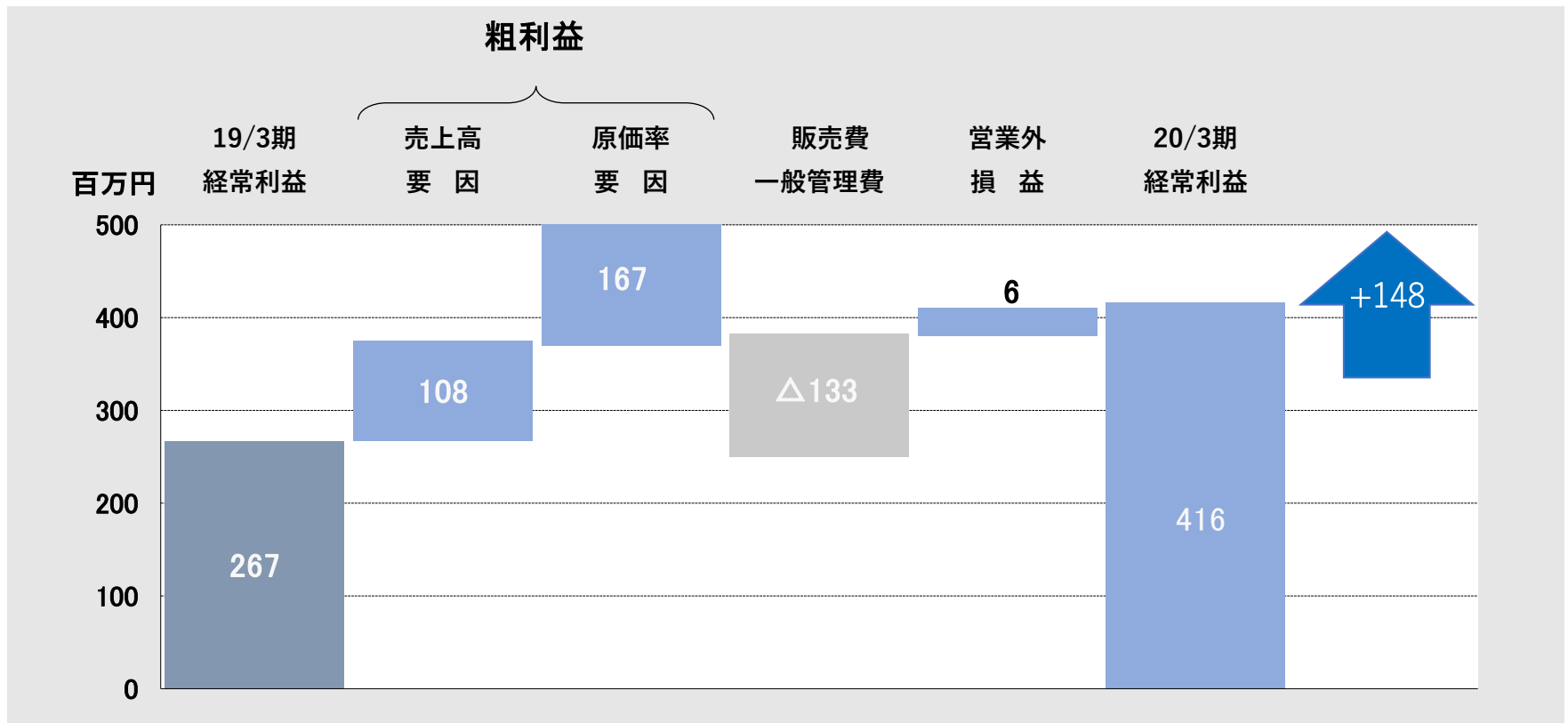
前期との経常利益差異要因

◆粗利益は275百万円増加

➤ 売上高増加（463百万円）により108百万円増益

原価率△2.2ポイントダウン（75.6%⇒73.4%）により167百万円の増益

◆販売費及び一般管理費は133百万円増加、営業外損益NET6百万円の収入増により、
経常利益は416百万円で前期比148百万円の増益



連結貸借対照表の概要（資産）

◆総資産は7,938百万円で△73百万円減

◆流動資産△185百万円減

➤売上債権△166百万円、たな卸資産

△87百万円、現金預金△61百万円減

前渡金132百万円増（主に伊勢原土地手付金）

◆固定資産は有形・無形固定資産減価償却112百万円と除売却・振替等で191百万円で合計303百万円減少したが、設備投資373百万円により70百万円増。投資その他の資産は繰延税金資産33百万円の積み増しにより41百万円増。固定資産全体では112百万円増

（単位：百万円）

	19年3月末	20年3月末	増 減
現金及び預金	1,186	1,125	△61
売上債権	2,595	2,429	△166
たな卸資産	2,143	2,055	△87
その他流動資産	89	219	130
流動資産計	6,015	5,829	△185
有形固定資産	1,604	1,635	31
無形固定資産	24	63	38
投資その他資産	367	409	41
固定資産計	1,996	2,108	112
資産合計	8,011	7,938	△73

連結貸借対照表の概要（負債・純資産）

◆負債は4,044百万円で383百万円減

➤ 買入債務（買掛金・工事未払金、電子記録債務、支払手形など）が△251百万円減、有利子負債は970百万円で△138百万円減

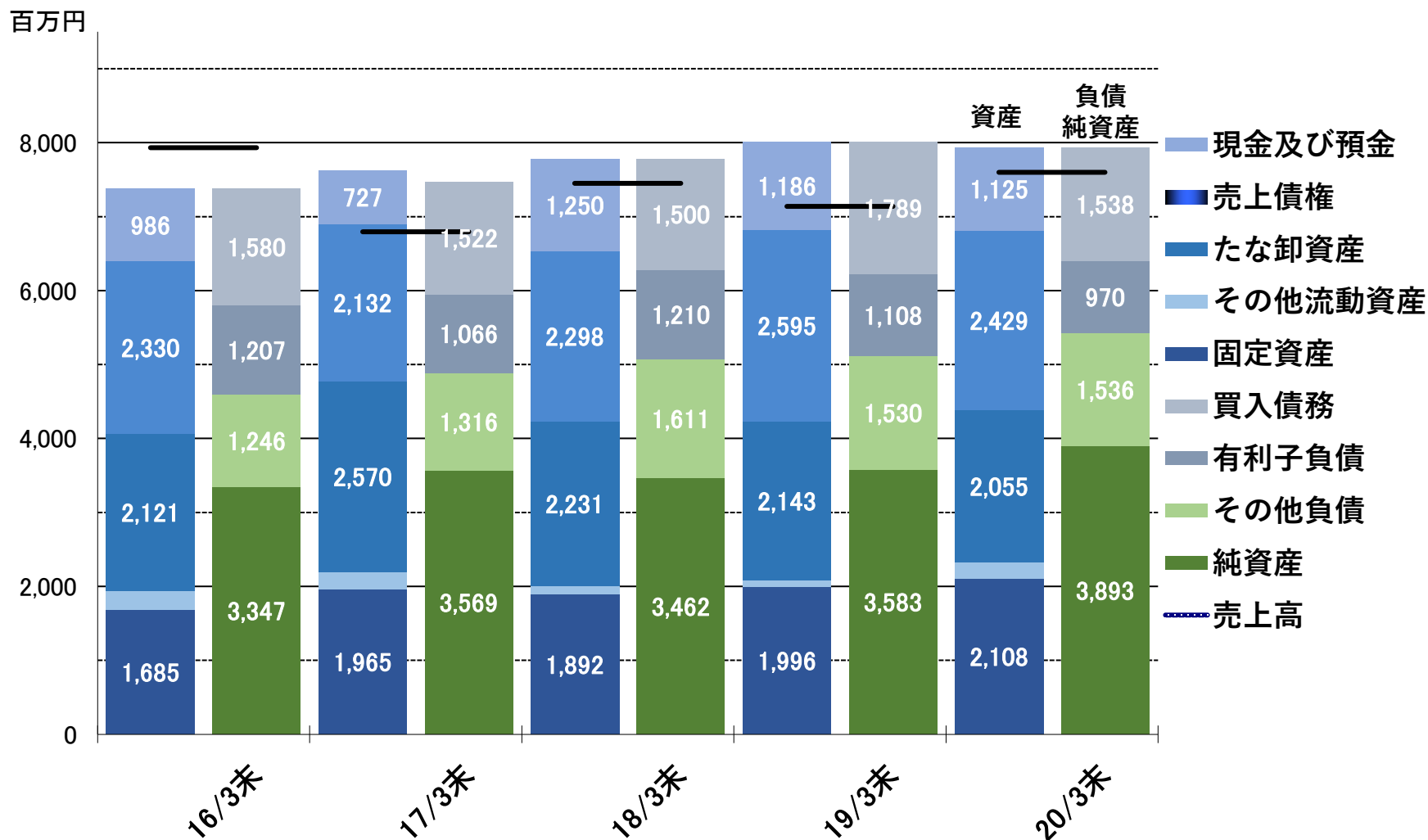
◆20/3末自己資本は配当金53百万円の支出はあるが、当期純利益338百万円計上などにより309百万円増の3,893百万円（非支配株主持分を除く）

◆自己資本比率は48.8%(+4.3ポイント) ROEは9.1%

（単位：百万円）

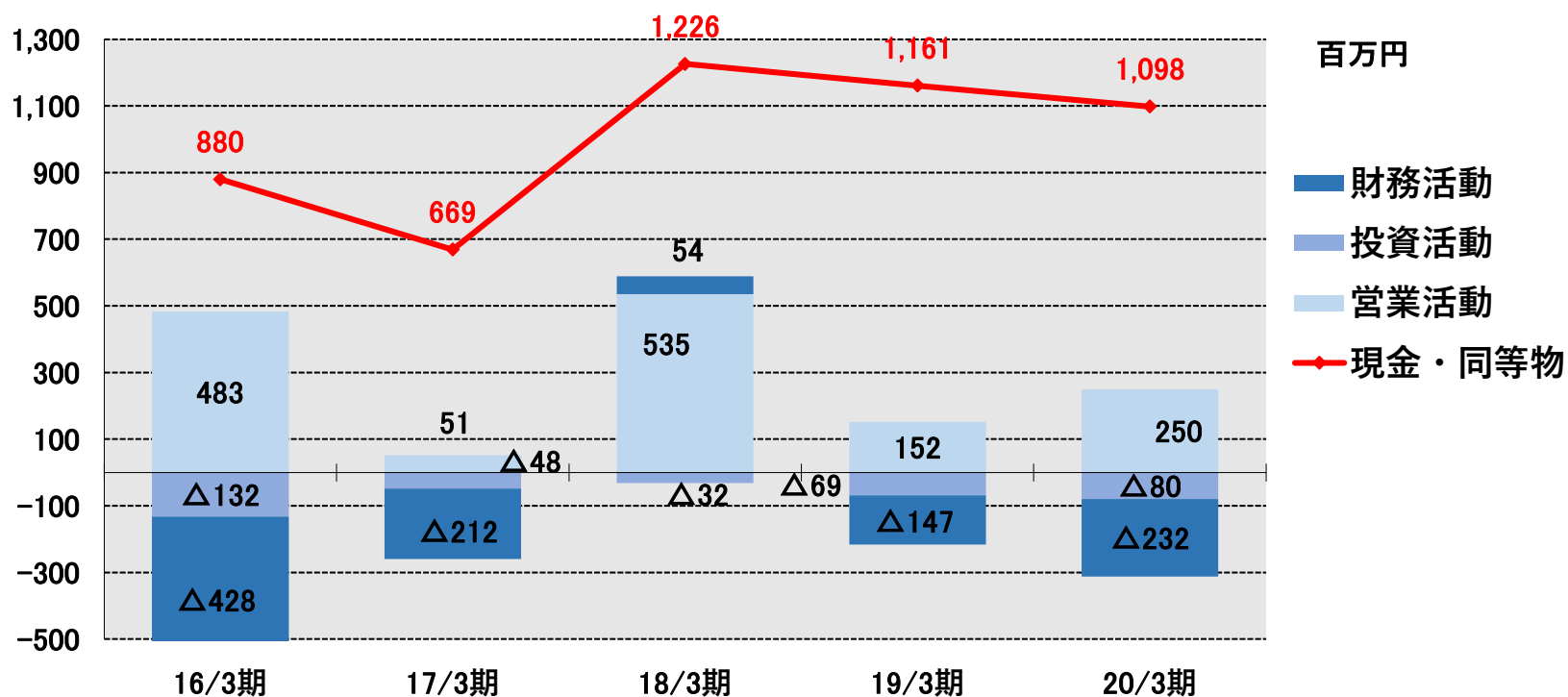
	19年3月末	20年3月末	増減
買入債務	1,789	1,538	△251
短期借入金	770	690	△80
長期借入金	338	280	△58
その他	1,530	1,536	5
負債合計	4,428	4,044	△383
資本金	1,165	1,165	—
資本剰余金	0	0	—
利益剰余金他	2,275	2,560	284
その他包括利益他	123	148	24
非支配株主持分	18	19	1
純資産合計	3,583	3,893	310
負債・純資産合計	8,011	7,938	△73

連結貸借対照表・・・総資産回転率は0.95回 D/Eレシオ（負債資本倍率）は△0.04倍



キャッシュ・フロー（CF）の状況

- ◆営業CFは250百万円の資金収入…売上債権減少
- ◆投資CFは80百万円の資金支出…有形・無形固定資産取得244百万円、有形固定資産売却168百万円（厚木土地手付金入金含む）
- ◆（+169百万円のフリーキャッシュ・フロー）
- ◆財務CFは232百万円の資金支出…借入金返済、配当金支払い
- ◆現金及び現金同等物の期末残高は1,098百万円（前期末比62百万円減少）



次期2021年3月期連結業績見通しについて（未定）

- ・ 2018中期経営計画（2018年度～2020年度）の最終年度である次期（2021年3月期）については、現在、新型コロナウイルス感染症の影響を現段階において合理的に算定することが困難なことから未定としております。

当社グループでは、ボーリング機器関連、工事施工関連ともにゼネコン各社の新型コロナウイルス対策の動向により業績への影響が生じることも見込まれます。

業績予想については、今後、開示が可能となった時点で速やかに開示いたします。

補足資料

厚木工場を売却し、伊勢原新土地購入へ

- ◆2020年3月27日にお知らせいたしておりますとおり、当社は6月30日付けで厚木工場の土地・建物を売却し、新たに神奈川県内の伊勢原工業団地に21,531㎡（約6,500坪）の土地を購入することといたしました。
- ◆取得価額は約1,326百万円（手数料諸費用含む）で、取得資金は自己資金と銀行借入れによります。
- ◆同土地での新工場建設には約2年間かかる見込みであるため、現在の厚木工場はそれまでの間、引き続き当社が賃借し、製造・生産活動を行います。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

持続可能な世界の実現のための17のゴール、169のターゲットから当社の事業活動が貢献できる課題を抽出し、取り組んでまいります。



鉦研工業の独自の機械と独自の技術でプライベートビーチを目指します。

社 是

ONE & ONLY の技術構築のために前進

経営理念

顧客の安心を以て信頼を得、

全従業員とその家族の幸福を追求し、（PEOPLE）

地球と社会に限りなく貢献する会社となる。

（PLANET）（PEACE）（PROSPERITY）（PARTNERSHIP）

国内における新機種の世界投入



新開発 RPD-70C

- 小型のRPD-40Cと大型のRPD-180Cの中間機種
- ★ 大型機が入らない狭小地の作業を可能とする
- ★ 小型機では不足するパワーを保有する

新開発 KMP(A)-VM800

- 小型プラントと大型プラントの中間機種
- ★ 大型機が入らない狭小地の作業を可能とする
- ★ 中容量ミキシングプラント

新開発 RPD-75SHF

- 中型スキッドベースマウントパーカッションドリル
- ★ 現場における人的災害を極小化
- ★ 建設作業員の重労働と作業人員の低減化

国内初 ロッドハンドリングマシン

- 安全作業と人員削減効果に最大限の寄与
- ★ 現場における人的災害を極小化
- ★ 建設作業員の重労働と作業人員の低減化

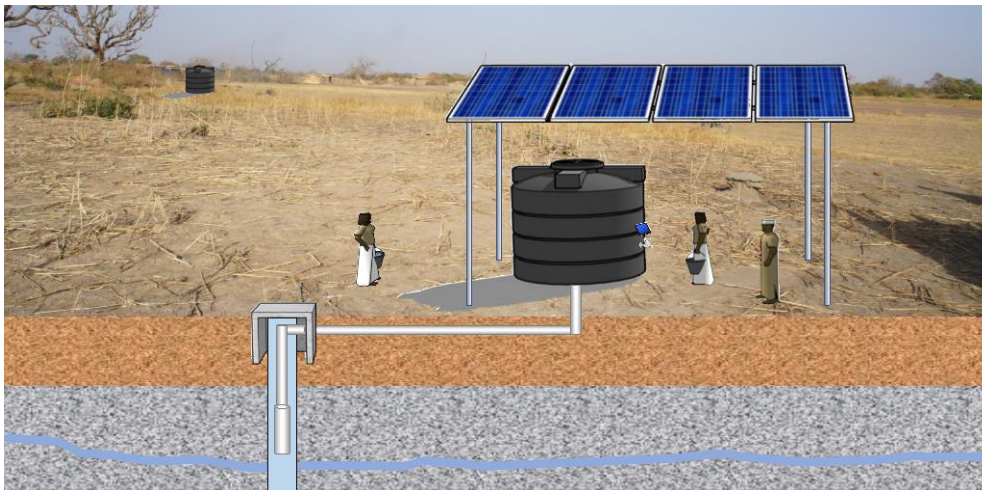
海外における新ビジネスの展開

中小企業・SDGs

ビジネス支援事業



国際協力機構(JICA)の2019年度第二回「中小企業・SDGsビジネス支援事業」にて、弊社が応募した「マラウイ国 電子マネーを用いた持続可能な給水システムに関する基礎調査」がブルキナファソに続き採択されました。本事業によって、現地住民の水アクセス率が向上すると同時に、女性や子供の水汲み労働が軽減され、不衛生な水を飲むことによって生じる水因性疾患の割合も減少することが期待され、SDGsゴール6「安全な水とトイレを世界中に」に貢献致します。さらに、この地下水は農業の発展にも寄与することが期待されます。





将来見通しに関する注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
- 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。